広報 こすど

発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行編集人 矢部藤三郎

ウデコキ、矢代田保育園移増築決まる

九月定例町会

九月定例会は去る二十四日より会期四日間で開かれました。第一日目は町長の報告と一般質問を行なった上議案請願等をそれぞれの委員会に附託しました。委員会審議の上提案された議案は原案通り承認し議決されました主なものの概要をお伝えしますと、中学校の復旧工事は予定通りに進行しております。電気工事も工事の進行に合わせて進めなければならないので新潟市の木下電友商会と電気工事の契約を専決したこと、その他の専決と併せて承認しました

一、国民健康保険条例の改正

三月の定例会で助産費と葬祭費を壱千円に改正しましたが十月一日からどちらの方も弐千円に引上げられます。

二、国民健康保険税率の改正

三十七年度分は次のような税率で計算されます

( )内は旧

所得割	$\frac{1.55}{100}$	$\left(\frac{2}{100}\right)$
資産割	$\frac{8.17}{100}$	$\left(\frac{8.1}{100}\right)$
均等割	一人二六〇円	(二五〇円)
平等割	一世帯一〇一〇円	(九七〇円)

三、産育資金の予託

今回六拾万円を追加予託することになりました。これで総計百八拾万円となります。

四、ウデコキ保育園矢代田保育園の移増築について

両保育所には中学校を解体した古材を運搬して下準備にかゝっておりましたが今回それぞれ建築する事に決まりました。ウデコキの方は現在のものを東向きにして移築し、その後に六十一坪を新築しようというものです。新築の暁には遊具など買ってほしいと、増築整備委員会から金参拾万円の寄附がありました。矢代田の方は地元で敷地を寄附されます。保育園の西手で三十二坪半のものを建設いたします。

五、委員の選任

九月三十日任期満了になる教育委員穴沢貞次郎さんを再び選任し、固定資産評価審査委員に小柳侃二さんが就任されることに同意を与えました。

六、寄附金

ウデコキ保育所の参拾万円の外、前郵便局長五十嵐さんより、小中学校生徒の奨学資金として金拾万円の寄附がありました。御趣旨にのっとり、全額を基本金として積立てゝおきます。新保育所の遊具購入費の一部金として地元から七万円。また小須戸町婦人会から第一保育園に五千円の寄附がありました。何れも有難く採納中し上げます

七、期末、薪炭手当に加給

六月十五日に支給する期末手当、八月末日に支給する薪炭手当の額に一列弐千円加給することとなりました。ただし臨時職員は壱千円

八、一般会計予算の追加更正

今回追加された額は六百弐拾六万円余で通計しますと一億九百万を越える予算になりました。支出の主なものは、道路改良や舗装の分担金等に百万円余り、ウデコキ、矢代田保育園の建設費、産業育成資金の予託、職員に期末薪炭手当の加給をするなどで、財源としては地方交付税、民税その他の増を見込んでおります

九、請願その他

山の手の方々から簡易水道新設の請願と矢代田小学校の屋外運動場の拡張請願、町商工会より事務所増築についての助成請願があり採択いたしました。中学校の復旧工事に引続いて理科室、図書館室、家庭科調理室の三教室を増築してほしいという請願が中学校PTAその他から出されましたが道路工事について一番町上から出されたものと、一緒に継続審査になりました。この外、内閣総理大臣を国民投票により選任する要望を賛成多数で決議し三党々首に要望書を送ることにしました。

たった一分
一年たてば
六時間

新生活入選標語

壇論

重点をしぼる

だれでも、見る物、きくもの何でも欲しくなるのは人情である。電気洗濯機が買いたい、テレビも入れたい、電気冷蔵庫と扇風機も必要だというぐあいに……。

しかし、全部を一度に揃えるわけには行かないので、大ていはその中のどれか一つということに落ちつく。中にはその一つさえも「分割払か、月賦で」というところもあるはずだ。

こういうことは町の予算にもいえることである。橋も早くかけてもらいたいし、道路も全部舗装してもらいたい、塵芥焼却場も火葬場も要るし、学校給食の設備も必要だ、というように…。

さて、このような要求をどのように満足させて行くかということになると町当局も議会も頭を痛めるのは当然である。小さい町の乏しい予算の使途は、貧しい家のやりくり以上にむずかしいことであろう。

ところで、この町のやりくりの苦労がさっぱり一般に通じないのはなぜであろうか。一般の町民には橋の工事が現在行なわれていないことに対して不思議に思い、町の舗装もやったり休んだりしていることを変に考え、以前から問題になっている塵芥焼却場や火葬場についてもなぜ早くできないのかと首を傾けるむきも少くない。

あっちに手をつけ、こっちに手をつけるよりも一つのまとまったものを仕上げた上で、次の仕事に移るわけにはいかないものであろうか。中途で休んで再び仕事を始めるよりは、続けて一気に仕上げた方がよいはずなのに——。

また、県や国につながっていることだから、その仕事の関係で交付金や補助金にわくづけがあって思うようにできないのだろう、といったふうにいろ〳〵と考え、憶測する。

それに、「泣く子と何とかに勝てぬ。」ということわざのように、請願や陳情などがあればやるが、それがなければやってもらえないか、あるいはぐっと遅れるということはなかろうか。

各家庭においても、わがまゝを通そうとして大声を出したり、泣いたりする者があった場合、その者の言い分をそのまゝ通して良いものだろうか。あるいは、そのまゝでなくとも、その一部か代わりのもので一時おさえることが、はたして正しい処置であろうか。

できたら、やはり請願陳情などがなくてもよいように運んで行ってもらいたいものである。

この小さい町に町当局はじめ教育委員や町議のりっぱな方々がたくさんおられるのだから、もっと町民全体に理解のできるようなPRの方法が考えられなければなるまい。

何としても「泣けばやるが、泣かねばやらぬ」というようなことが当然のように国の政治面でも言われるのでは情ない。たとえ黙っていたとしても、先の見通しから考えて大切なことがあるならばその重点へ全力を注ぎ、それが終って次に移るような方針は立てられないものだろうか。

(佐野良人)

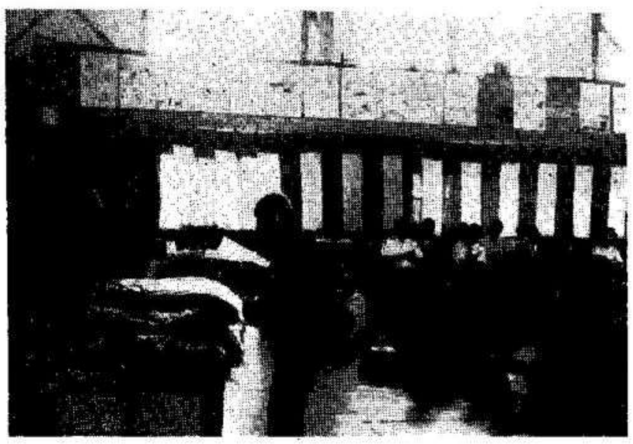
もうかる商店 工場に希望

中小企業庁よりモデル商工会に指定

みなさんもすでにおわかりでしょうが、今回小須戸町商工会が中小企業庁よりモデル商工会に指定されました。これはみなさんの日頃の熱心な御協力の賜と、心から厚く御礼申上げます。

この指定は三年間となっていまして、当然全町一致の体制によらねば諸事業等の遂行は到底おぼつかないのであり各方面から、今後一層の御協力添えをお願い致す次第であります。この指定により国県より年間二十万円もの多額の補助を頂くほか、「中小企業庁よりモデル商工会に指定された小須戸町商工会で実施する総合診断についての構想(案)」もすでに県当局ならび商工会県連合会において、おのおの具体的に企画立案されつつありまして、その中で特に私どもが常々痛感しております「交通面と都市計画の策定」あるいは「商店街の整備と美化のための商店街診断」等の数多くの問題点がとりあげられ、これについて特に新大教授の川崎先生をはじめ県当局、ならびに商業、工業関係診断員及び県連役職員をもって、「小須戸町総合診断特別委員会(仮称)」の構成もその緒につくまでになっておるのであります。

またさる九月十八日には西頸城郡能生町から視察団の一行をお迎えしており、引続き佐渡郡の商工会長団をはじめ、宮城県の商工会長団約三十名と岩船郡の商工会等の視察の申込みを受けております。その都度商工会活動についてだけでなく町全体のことについて、話し合われるのであります。この指定期間の三年間を無事完了させて頂くようみなさんの格段の御協力を下さいますようお願い致します。



みなさんおめでとう

敬老会で

四百七十八名がお祝い

さる九月一七日「日曜日」小須戸小学校体育館で敬老会が開かれた。この日お祝いを受けた老人は小須戸町で四百七十八名であり今回は七十五才以上の老人にはお菓子を、また九十才以上はザブトンを百才以上にはカケブトンを、県知事よりおくられた。当町では七十五才以上の方が、二百三十二名であり、九十才以上の方が五名であり、百才では本町ではおりませんでした。この日の敬老会は午前中はお祝いや保育園、小中学生の唄やおどりなどを楽しみ、午後は十日劇団により楽しみ、三時に楽しかった敬老会も終り各地域別にバスで帰った。(写真は、ザブトンのお祝いを受けるおじいさん)

第二回 商工会珠算検定試験

期日　11月18日(日)
会場　小須戸小学校
級別　1〜8級まで
検定料　1級〜150円 2級〜120円 3級〜100円 4〜8級60円
申込〆切　10月25日
申込所　小須戸町商工会
手続　商工会に用紙があります。

尚 詳しいことについては商工会(T 6270)に問合せ下さい。

一般の方の受検も望みます。

小須戸風土記

明治大正 越後侠客物語

その二

柏大治

明治二年八月八日中蒲原郡小須戸は横町に越後一の大親分森田喜三次は生まれた。父は「喜六」という気むづかしやだがいたって好人物で世間の信用もある。母の名は「のぶ」家業は綿打渡世であるから、朝から晩まで古綿の中でピンピンとはたらいていたが、家庭の暮しは割合豊かでそれに商売が繁昌している。夫婦の間には、「おとら」という女の子が一人、夫婦はまるで虎の子を持ったように「おとらおとら」と可愛がっていたが、なんといっても男の子がいないのが淋しい。そこに喜三次が生れたのだから父喜六の喜びは大変なもの、喜三次の出世を祝うのだとおびやきには横町三十五軒中一軒のこらずに赤飯を配って廻ったというありさま。夫婦相談の結果生まれて七日目に喜六はこんな喜ばしいことが、再三ある訳はないと名前を喜三次とつけた。

「のぶ……今日喜三次を風呂屋へつれていって誰かほめたかい」

「ほめる人なんかないよ……目だけが大きく色が黒いってさ……」

「人の子をなんだってそんな下手なほめかたをしやァがるんだ」

「だから私もね……口惜しくて下町のお新さのいうことを一生忘れない心算だよ。お前さん、ごらん丸々と肥えてさ——この無心の顔を、お前さんとたんせいしてこしらえた子だもの」

「まるで団子でもつくるようなことをいっているじゃねえか」

と喜六はにが笑をしていますが、我が子となると夫婦は余念がない、夫婦の仲は至極円満で喜三次の次に忠作という子もできたが、喜三次が九才の時に父喜六はフトした病いで他界して終った。

母のぶのなげきは一通りではないが、親類縁者が集って御葬式をだす。

小須戸の御坊様「了専寺」の誦経も終って野辺途りもすみ、日がたつにつれ家庭は急に淋しくなる。ことに父が死んでから急に元気のない母を、喜三次は子供ながらも父の死を心に刻んでいるから気の毒でしかたがない

「お母さん心配しなさるな、俺れが家の商売を手伝うから」

と喜三次はけなげにも、それからは朝早起き家業の手伝いはもちろん姉弟の世話も良くしてくれる。

当時小須戸は田舎街ではあるが、街にそって流れる信濃川を控え水利の便に恵まれ、上は長岡に下は新潟へと大小の舟が数十そうとなく往来して商用のために、行き来るものは必ず小須戸に一泊する重要な水駅であるから、旅人の出入りも激しく中々繁昌して活発のある街である。しかしこう街だけにふうきはあまり良くない。旅籠屋、料理屋の客商売の店がずらりとなならんで、夜となるととたんに怪しげな女が脂粉を粧って「一寸旦那——兄さん」という具合で客を引いている。かなりこの方面は発展している上に、旅人が頻繁に出入りするから楽なもうけとばかり仂かないで博奕をやらかす。ことに素人衆の間にも当時「おかゆ団十、茄子なんばん」などという博奕が流行している始末だから、年頃の若衆になるとたいていこの「色」と「博奕」の二道楽をおぼえるのが普通になっている。喜三次も十六という立派な若衆になったが、一向こうした街の悪習にも染まず真面目一方で、友達が誘いにきても遊ぼうとはせず家業大事に精だしている。母のぶも安心して早く良い嫁でもみつけてやろうと楽しみにしていると、ある日のこと喜三次は「お母さん俺れは家業が嫌いになった」といいだした。

なぎさ

「きょうをいかせ」

きのうは、すでに飛び去った鳥である。
くよくよ思いまどうまい。
あすは、いまだ捕えぬ鳥である。
とりこし苦労はせぬがよい。
きょう〃 きょうこそは確かに捕えた鳥だ、殺しちゃならぬ。
きょうを、いかせ
そうだ、きょうを、とことんいかせ
希望に燃えて、感謝に溢れて
己が使命を完全に果し
きょうこの日を意義あらしめよ
今夜死んでも、笑って死ねる
そうした価値あるきょうたらしめよ

「人間らしい人間」

いやいや仕事をする人間。
それは牛馬と同様だ。
言われたことだけする人間。
それは囚人と変わらない
言われなくても、善いことは、ドシドシやってのける人間
それが人間らしい人間だ。
どんな苦境の中にあっても
常に希望に燃え 感謝に溢れ
己が業に努力する人間
彼こそ人間らしい人間なんだ。

第十七回 文化祭

期日　十一月三、四日
会場　第一会場 小須戸小学校
　　　第二会場 小須戸公民館
　　　第三会場 矢代田小学校「十一月二十三日実施」

生徒作品展、農産物展、商工物産展
町民余技展、各種運動大会等

主催 小須戸町公民館

あすの生活のために訪問集会を

新生活協会で研修

みんなの幸せと明るい社会建設のため町の新生活運動の展開に先立ち、このほどもたれた役員推進員研修会で発表いただきまして、矢代田第六常会新生活の会、本多清七さんのお話しをここにあげ、各地域での推進を期待いたしたいと思います。

私たちグループは新生活運動の推進に数年前より常会を通して、その推進に努力してまいりましたが、なかなか生活改善の実行はむづかしく話し合うだけで終ることが常でした。もっとも私はじめ訪問集会と、常会長の召集する常会とを同じ集会であると考えていたことも実行できなかった一つの理由であったかもしれません。そこで第三回目の集会から新生活推進会の性格と集会のあり方について、小須戸町新生活推進協諸会の委員であられる山の手婦人会長さんをお招きして、新生活の推進に有益な御指導をいただきまた先進市町村を視察なされた実状と体験を詳しく説明をいただきみんなの納得の行くまで話し合いをしました。そこで毎月隣移しで家庭を訪問し、その訪問したお家で集会を開くことにきめました。最初は集会の人員も三十八戸の内半分程度の出席であつたため一時は出席を多くするため欠席者は欠席料を頂くことに話し合いましたが、新生活推進の性格から出席の強要では改善向上はできないことだと気づき、話し合いにより欠席料を頂く事を廃止して、自主的の出席を強調しましたところ、みんなの出席を見ることができまして、第十回に至っては全員が所定時間までに集合を終り、定時開会ができましたことはみんなのよろこびであり、改善に大きく前進したものと思います。

つぎに第一回から十回までのいろいろの問題について、その実績と実行の過程についてお話し申上げ前途の指針の糧として、明るい家庭作みよい社会の建設に努力したいと思います。

まず第一回の集会は初めての話し合いであったため、なんの取りきめもないままに終了しましたが、二回三回五回と重ねるたびに力強く改善の話し合いが進められて行きました。この間話題の内もっとも実行にうつし実績の向上を見ておりますものは、まずみんなできめたきまりはみんなで守る言葉の改善。人の悪口や影口はいわないこと。年中行事の内節句もお正月と同様新暦にすること嫁と姑の問題。農休日及び集合時間の厳守。常会用の伝達用として黒板の新設。お盆の墓参りにお土産物やお参りにきた人に、お酒や料理等特別の接待をやめること。子供の家庭教育について各家庭の実行と経験を聞く。家庭内で話し合いの場を多くつくり、みんなの力でみんなの子供を強く明るく美しく育てよう。旅行や冠婚葬祭等の土産物は近所にくばらない等でありますが、その外に私達の日常生活の中に最も身近な問題が沢山ありますが、全部の問題が実行されていることではありません。一人でも二人でもまた多くの問題の中で一つでも二つでも改善されて行くことは、大きな前進であると思っています。一口に生活改善といっても短期間で完成は到底できないことは、みなさまも御承知のことと思いますが、みんなで力を合せてなかよく話し合うことにより、勇気をもって気長に長い年月を経て一歩一歩階段的に向上すれば、必らず目的の頂上に達することと思います。

一年間の過去をふり返って見ます時、日常生活のどこかに明るい改善の実績が見いだされております。二年より三年三年より五年後の明るい生活住みよい社会の向上が見いだされてみんなの力の偉大さに、喜びと感謝の気持ちにみつるものと信じております。以上が第十回までの反省と訪問集会の概要であります。

尚運動の展開について討議された中で、各部落地域での組織づくりが大切なことではないか。全町こぞって新暦による節句に改正されたり、また町の祭礼期間の短縮はどうか等の意見が活発にだされ、助言者からもべからず運動であってはならない、**モンダ式考え方**（そうゆうもんだ、こうゆうもんだということ）をなくさなければならない家族ぐるみの運動としてもって行くことが、理想ではないかという話しがあり、話し合いの時間延長までやりこの研修会を終了した。

給食施設見学に参加して

残暑なお酷しき九月五日、中学校PTAは教育長教育委員長始め町議会議員学校長関係教師会員多数を一行として公民館前を出発、あいにく小雨降る中を信濃川沿いに上流へと快走。成田先生の司会で各層から朝の挨拶があり意義と趣旨を真剣に聞き入る中、バスは見附小学校々門に到着した。さすが県下モデル給食実施校だけあって、なんとなく雄大さを感じさせられた。

酒井小学校長の案内で給食調理場を熱心に見学設備と衛生方面等良き参考となった。その後図書室で学校長と懇談、給食実施の経過や現況について詳細の説明があり、殊に市当局や関係者の理解と協力に感謝の言葉を述べておられた。

次に長岡市坂之上小学校へ到着。見るからに立派な三階建の鉄筋校舎で、終戦当時小須戸校に在職されたことのある須藤教頭の案内で生徒の給食配膳の様子を見ることができた。調理場から運搬した食事を各学年毎に配食、殊に低学年の児童が順序正しく、静かに配膳している姿を見て全く家庭では見られない立派な態度で驚かされた。ここに前記二ヵ校の参観を終えて給食の教育意義と価値とを再認識するとともに、小、中学校の給食完全実施となる日の近からんことを切望するものである。

もちろん、今後小、中学校のPTAは格段の研究を重ね、給食実現を見るにも要は全町民の協力と熱意が必要なのだから成功の早からんようますます努力しなければならないと感じた。

（終）

楽しかったバスの旅

小須戸町身障会で各地を見学

九月二日日曜日小須戸町身体障害者福祉協会では、県種畜場などの見学に一日を楽しんだ。戦争に傷つき、職場に傷つきまた病に断れた、手足の不自由な人、目の見えない人、口のきけない人、耳の聞こえない人、あらゆる困難と戦かって肉体的精神的に恵まれない人達ばかりであり、協会結成以来初めてのリクレエーションです。日頃の苦労も忘れてみんなの顔は明るい。昨年の九月十八号台風の最中一村全滅の状態になった田上村保明新田を通り、黄金の稔りの蒲原平野をバスガイドさんの唄と説明を聞きながら、九時には県種畜場に到着した。日曜日にもかかわらず場長さんのお迎えを受け、説明と御案内で約一時間雄大な種畜場を見、立派な設備、優秀な牛、馬、山羊、豚等あちこちに山積された収穫品副産物のカボチャが一斗桝位の大きさで珍らしいというよりは、驚きに近いものである。十時半種畜場をでてバスは長野温泉に向った。車中では八木昇の絶景を眺め、中村氏のロマンス話しに花を咲かせ十一時には嵐渓荘についた。五十嵐川の上流を横に谷間にできた静寂そのもの絶好の集会場だ。

変りゆく社会情勢下に心痛の悩みを忘れ、今日一日はお互いの体験談や諸問題について話し合うのが目的だ。各自日の丸弁当を出しあって会食がはじめられ、話しもはずみ笑いがとまらない。唄もでて義足をつけた人が踊る、片手で柏手音頭をとる。すこしのひがみもない明朗そのものだ。この意気ぞみんなが仂く意欲に燃えているのだ。助けあって自力更正を図り明るい希望を持って進まなければならない。神経系統に効くという、この温泉に心ゆくまで休養し、全員無事故の中で笑顔で帰路についた。

小須戸町身障会長　松沢広治

給食の話を聞えているお母さんたち

））釣の研究（（ 今年の鮎釣り

竹竿

今年は洪水がなかったので、県下のどこの鮎も豊魚で育ちも好い。鮎には逆上期と下降期があって、今は下降期に入ったので（九月十五日ころより）集団をなして成魚が清例な流れにそって、上流から下流に移動しつつある。よって今から十月の中旬ころまでは誰でもおもしろいようにとれる

先般釣友のW君とT君と一諸に阿賀野川中新田の橋より五・六丁あがった所でゴロ掛釣りをやった。両君とも初心者で今年初めて鮎釣りの経験だが鮒釣りと異って大川の清流での気分はまた格別であったろうと思う。

最初誘ったときはあまり気乗りも興味も感じないようすで、しぶしぶ同道したようであったが初回で釣りがいがあったのですっかり興味をおこし、我がファンになってくれたので、「やれやれ百聞は一見にしかずかなあー」と思った。若鮎は川魚の女王であり、あるいは清水の騎士の風格をもっている。

愛鱗会や釣り師のみなさんは蒸し暑い夏中の鈎りは清流で若鮎を釣ることをおすすめしたい。釣具は三間半位の丈夫な竿があれば別にたいした道具はいらない。私は今年蒸し暑い夏の間、苦もなく過せたことは鮎釣りのお陰だとつくづく思っている。鮒釣りが女性的であるなら鮎釣りは男性的で真夏の日光を全身に浴びて、しかも心よいさわやかな涼風をうけ手足を適当に動かす釣技は誠に健康的なレクリェーションというべきであろう。

好評得ている一日入院

県立小須戸病院で実施している『一日入院』は好評を得て進められ、このたび婦人会では「家庭看護法」のテキストなどを作り、少しでも健康を守る知識を得たいと、はりきっている。

なお、内科、外科、産婦人科では、部落へ出張して各専門のお話をしたり、質問に答える準備も考えられている。

未亡人会再発足する

小須戸町未亡人会は、しばらく活動を停止していたが、このたび熱心な人たちの要望により再発足することになった。

会長　川村マツ
副会長　森田ふさ
〃　穴沢ヨネ

赤い羽根募金に御協力を

共同募金運動については毎年みなさまの絶大な御援助をいただいておりますが、この紙上を借りて厚く御礼申上げます。

本年も十月一日から十二月末日までの三ヵ月間、別記目標額達成を目指して、この運動を展開することになりました。小須戸町の目標額は昨年にくらべて、約弐万千八百円の増額となっております。

色々寄附金等の重なる折からまことに恐縮ですが、ますます拡充強化を要請されております。社会福祉事業の発展のため格別の御協力をお願い申上げます。

記

県目標　四六、三四〇、〇〇〇円
郡目標　一、二二四、〇〇〇円
本町の目標　一九九、八〇〇円

また過日各町内嘱託員を通してお願いしておりました。日赤募金及び愛の封筒募金に御協力下さいましてありがとうございました。募金実績は次のとうりですので、御報告申上げます。

一、日赤募金　拾壱万壱千百五拾九円
一、愛の封筒募金（社会を明るくする運動募金）　参万五千五円

訂正

前号二面の「前局長の美挙」記事中の小須戸小、中学校を、小須戸町立小中学校に、第一保育所をうでこき保育園に訂正いたします。

毎週月曜日は青年学級の学習日です

町民魚釣り大会案内

期日　十月十四日（日）
場所　西蒲栗千坊
出発　朝六時
　公民館前より貸切バスにて
人員　六十名まで
入賞　十八名
申込　十月十日までに
　公民館へ
主催　小須戸町愛鱗会

職場加入卓球大会

小須戸卓球協会で主催

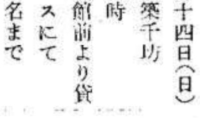
さる九月二十三日日曜日午前十時より、小須戸小学校体育館で町卓球協会主催で、職場団体加入記念及び職場親善卓球大会が開かれた。この大会に参加した各職場団体は十三チームで各チーム共熱戦であったが、その結果入賞チームは次の通りである。

優　賞　加藤製作所A
二　位　加藤製作所B
三　位　丸山メリヤス

橋本卓球協会長談

今回の大会は勝敗は第二として、あくまでも職場相互の親善と社会体育推進の意義を主眼として開催しましたが、各商社の経営者側ともに熱心に観戦して下され大変感謝しました。一、二位を得た加藤製作所はもとより各職場とも非常にまとまりを感じました。今後技とチームワークの向上を計り卓球を通して健全な職場の発展を希望する次第です。

購入図書



◇へらぶな釣百科　鈴木魚心
◇幼児の見かた育てかた　羽仁説子
◇交通事故の有利な解決　増永俊夫
◇不安な演奏　松本清張
◇海の葬祭　水上勉
◇しあわせな子どものゆくえ　秋山ちえ子
◇家庭の法律早わかり　渡辺剛彰
◇マタギ　戸川幸夫
◇北上山系に生存す　大牟羅良
◇野生のエルザ　ジョイ、アダムソン　訳　藤原英司
◇雁の死　水上勉
◇おりがみとかみざいく　美術紙芸研究会
◇続、地方記者　編　朝日新聞社
◇地球物語
◇月着陸A―OK　岸田純之助
◇世界残酷ものがたり　庄司浅水
◇海底散歩の楽しみ方　猪野峻
◇道ひとすじ　編　朝日ジャーナル
◇よい名前のつけ方　田口二州
◇大坂侍　司馬遼太郎
◇家庭の事情　源氏鶏太
◇女の繭　円地文子
◇銀座の快男児　中野俊介
◇君は花の如く　藤沢桓夫
◇赤と黒　立野信之
◇風の遺産　新田次郎
◇妻の持つ扇　川口松太郎

完納に御協力を

十月納入の町税

十月は住民税第三期分と保険税第四期分の納期です。また今月は「町税完納月間」として特に滞納金整理のため、この期間中に係員が滞納者宅を訪問し、税金の完全徴収を行ないますから、その際は必ず納入下さるようお願いします。

祝豊年

小須戸町俳句同好会

肌寒き雲が追ふ没陽の前　越後
豊年の稲の匂いのして停車　山葵
蕎の花こぼれて雨の小やみなり　芳人
山里の道は片側蕎麦の花　一陽
薄暮れて工場灯す稲の中　旺資
間引菜を与へて帰す日雇女　虚秋
番犬のはたと鳴きやみ虫の声　水月
冷涼をむさぼる如し朝若菜　杏水
朝寒の石油コンロに粥煮立つ　竜朗
梯子引かず明日の無花果心あて　紫川
町はづれまで押し寄せて稲の波　流水